



平成31年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年9月5日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東  
 コード番号 2438 URL <https://www.asukanet.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼COO (氏名) 松尾 雄司  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役CFO (氏名) 功野 顕也 (TEL) 082-850-1200  
 四半期報告書提出予定日 平成30年9月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年4月期第1四半期の業績(平成30年5月1日～平成30年7月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年4月期第1四半期	1,441	3.8	139	△1.1	142	△0.6	96	△1.8
30年4月期第1四半期	1,388	12.9	141	4.7	142	5.4	98	7.1
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
31年4月期第1四半期	5.74		5.73					
30年4月期第1四半期	5.87		5.84					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年4月期第1四半期	5,580	4,934	88.4
30年4月期	5,715	5,000	87.4

(参考) 自己資本 31年4月期第1四半期 4,934百万円 30年4月期 4,997百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年4月期	—	0.00	—	10.00	10.00
31年4月期	—	—	—	—	—
31年4月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年4月期の業績予想(平成30年5月1日～平成31年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,111	3.5	806	2.2	811	1.9	567	1.8	33.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、業績管理を年次で行っているため、第2四半期累計期間の業績予想は開示しておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料6ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

31年4月期1Q	17,464,000株	30年4月期	17,464,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

31年4月期1Q	622,941株	30年4月期	662,541株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

31年4月期1Q	16,822,602株	30年4月期1Q	16,752,963株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、政府の景気対策や日銀の金融政策などの効果により、企業収益や雇用情勢の改善傾向が継続し、緩やかな回復基調で推移しておりますが、米中両国の貿易摩擦による世界経済への影響や一部通貨の不安定な状況など、依然として先行きは不透明な状況が続いています。

このような状況の中、当社は、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し、遺影写真等画像映像のデジタル加工や通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部売上を含んでおります。

#### (メモリアルデザインサービス事業)

当事業におきましては、主力である遺影写真加工収入が堅調に推移し、また、ハード機器や額の売上も順調に推移しました。また、エアリアルイメージング事業とのコラボ製品である「飛鳥焼香台」の売上も寄与いたしました。また、葬儀市場にITテクノロジーを活用した「葬テック」としてリリースしましたスマートフォンから簡単に弔電などが注文できる「tsunagoo」の機能強化およびサービスの浸透に努めてまいりました。

一方、利益面につきましては、画像処理オペレーターの人員増に伴い人件費が増加し、また昨年秋以降の運賃の値上げにより発送配達費が増加したため、セグメント利益は減少いたしました。

以上の結果、売上高は595,285千円（前年同四半期比105.5%）、セグメント利益は142,296千円（前年同四半期比93.3%）となりました。

#### (パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業では、プロフェッショナル写真家向け市場は「アスカブック」、一般消費者向け市場は「マイブック」ブランドで展開しております。また、スマートフォンで撮影された写真からフォトブックや写真プリントをOEM供給しております。

プロフェッショナル写真家向け市場では、自社営業による契約獲得に加え、展示会への出展、ASUKABOOKセミナーの実施や、新製品のリリースなどの施策により、売上は順調に推移いたしました。また、「赤ちゃん等身大フォト」の浸透にむけてプロモーションを進めてまいりました。

一般消費者向け市場では、各種キャンペーンや効果的なネット広告の実施などにより、写真愛好家層やこだわり層を中心に受注獲得に努めてまいりましたが、競争環境が厳しく、一般消費者向け売上は苦戦いたしました。一方、OEM供給に関しましては、前期実施されたキャンペーンの反動があったものの、サービスの浸透が進み、売上は増加いたしました。

利益面につきましては、OEM部門を中心に生産能力を拡大したため、稼働率が低下したことにより粗利率が下がったことに加え、昨年秋以降の運賃の値上げにより発送配達費が増加したため、セグメント利益は減少いたしました。

以上の結果、売上高は817,835千円（前年同四半期比103.0%）、セグメント利益は178,553千円（前年同四半期比95.1%）となりました。

#### (エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、平成23年3月に開始した事業であり、独自技術により空中結像を可能にする「ASKA3Dプレート」について、ガラス製、樹脂製それぞれを開発、製造、販売しております。

ガラス製ASKA3Dプレートにつきましては、依然として十分なコストダウンは図れておりませんが、高品質な大型プレートを供給しており、小ロットではありますが、サイネージ目的や開発目的での販売を行っております。また、メモリアルデザインサービス事業とのコラボレーション企画製品である「飛鳥焼香台」向けのプレート供給も行ってまいりました。

樹脂製ASKA3Dプレートにつきましては、平成30年6月より第一弾のサンプル品を供給開始しており、ガラス製プレートの購入先や展示会等で引き合いのあった先を中心に販売してまいりました。また、サンプル供給と並行して、少しでもガラス製プレートのクオリティーに近づけるべく、金型の改良等により品質の向上を図るとともに、歩留まりの向上、品質の安定に向けた量産を前提とした試作を進めてまいりました。

費用面では、人員の増強による人件費の増加や、海外を中心とした旅費交通費の増加がありましたものの、前期に比べ海外展示会の出展回数を減らしたため広告宣伝費は減少いたしました。

以上の結果、売上高は34,721千円（前年同四半期比104.5%）、セグメント損失は52,499千円（前年同四半期は72,351千円の損失）となりました。

以上の結果、売上高は1,441,602千円（前年同四半期比103.8%）となり、利益面につきましては、エアリアルイメージング事業において海外展示会出展などによる先行費用が減少したことによりセグメント損失が縮小したものの、メモリアルデザインサービス事業およびパーソナルパブリッシングサービス事業におきまして、人員増強や生産設備拡充により粗利率が低下したことや、運賃の値上げにより発送配達費が増加したことなどにより、経常利益は142,139千円（前年同四半期比99.4%）、四半期純利益は96,492千円（前年同四半期比98.2%）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### （資産）

当第1四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ135,470千円減少し、5,580,427千円となりました。これは主に、土地の購入などにより有形固定資産が371,996千円増加したものの、土地の購入や法人税等、配当の支払いにより現金及び預金が485,759千円減少したことによるものであります。

### （負債）

当第1四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ70,003千円減少し、645,880千円となりました。これは主に、未払法人税等が84,300千円、賞与引当金が63,500千円減少したことによるものであります。

### （純資産）

当第1四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ65,466千円減少し、4,934,547千円となりました。これは主に、四半期純利益を96,492千円計上した一方で、剰余金の配当による減少168,014千円によるものであります。

## （3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年6月11日に発表いたしました平成31年4月期業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年4月30日)	当第1四半期会計期間 (平成30年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,311,781	1,826,021
受取手形及び売掛金	726,531	718,368
商品及び製品	191,123	184,092
仕掛品	14,325	18,389
原材料及び貯蔵品	62,206	59,335
その他	33,559	25,135
貸倒引当金	△2,617	△2,362
流動資産合計	3,336,909	2,828,982
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	512,558	529,810
機械及び装置(純額)	396,538	413,509
土地	611,507	838,060
その他(純額)	172,702	283,921
有形固定資産合計	1,693,306	2,065,303
無形固定資産	206,851	210,156
投資その他の資産	478,829	475,985
固定資産合計	2,378,988	2,751,445
資産合計	5,715,897	5,580,427
負債の部		
流動負債		
買掛金	126,270	119,474
未払法人税等	137,900	53,600
賞与引当金	136,500	73,000
その他	303,512	388,579
流動負債合計	704,183	634,654
固定負債		
退職給付引当金	6,482	6,482
その他	5,217	4,743
固定負債合計	11,700	11,225
負債合計	715,883	645,880
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	4,183,583	4,105,643
自己株式	△285,940	△268,850
株主資本合計	4,994,527	4,933,678
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,129	869
評価・換算差額等合計	3,129	869
新株予約権	2,356	—
純資産合計	5,000,014	4,934,547
負債純資産合計	5,715,897	5,580,427

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年7月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成30年5月1日 至平成30年7月31日)
売上高	1,388,970	1,441,602
売上原価	664,785	722,976
売上総利益	724,184	718,626
販売費及び一般管理費	582,611	578,631
営業利益	141,572	139,995
営業外収益		
受取利息	167	88
受取配当金	610	510
受取手数料	135	190
為替差益	446	377
保険金収入	—	832
その他	8	144
営業外収益合計	1,369	2,144
営業外費用		
その他	10	—
営業外費用合計	10	—
経常利益	142,931	142,139
特別損失		
固定資産除却損	550	72
特別損失合計	550	72
税引前四半期純利益	142,381	142,066
法人税等	44,117	45,574
四半期純利益	98,263	96,492

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。



(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 平成29年5月1日 至 平成29年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージジ ング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	564,052	793,852	31,064	1,388,970	—	1,388,970
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	2,160	2,160	△2,160	—
計	564,052	793,852	33,224	1,391,130	△2,160	1,388,970
セグメント利益 又は損失 (△)	152,477	187,774	△72,351	267,899	△126,327	141,572

(注) 1 セグメント利益の調整額△126,327千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期累計期間(自 平成30年5月1日 至 平成30年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージジ ング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	595,285	817,835	28,481	1,441,602	—	1,441,602
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	6,240	6,240	△6,240	—
計	595,285	817,835	34,721	1,447,842	△6,240	1,441,602
セグメント利益 又は損失 (△)	142,296	178,553	△52,499	268,350	△128,355	139,995

(注) 1 セグメント利益の調整額△128,355千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。